2024 年 5 月 30 日

芝浦一丁目地区まちづくり協議会
（事務局：一般社団法人芝浦エリアマネジメント）

国土交通省の「官民連携まちなか再生推進事業」に採択
芝浦一丁目地区まちづくり協議会がキックオフイベントを実施
合計 25 団体、総勢約 70 名が参加
2025 年 3 月の未来ビジョン策定に向けて始動



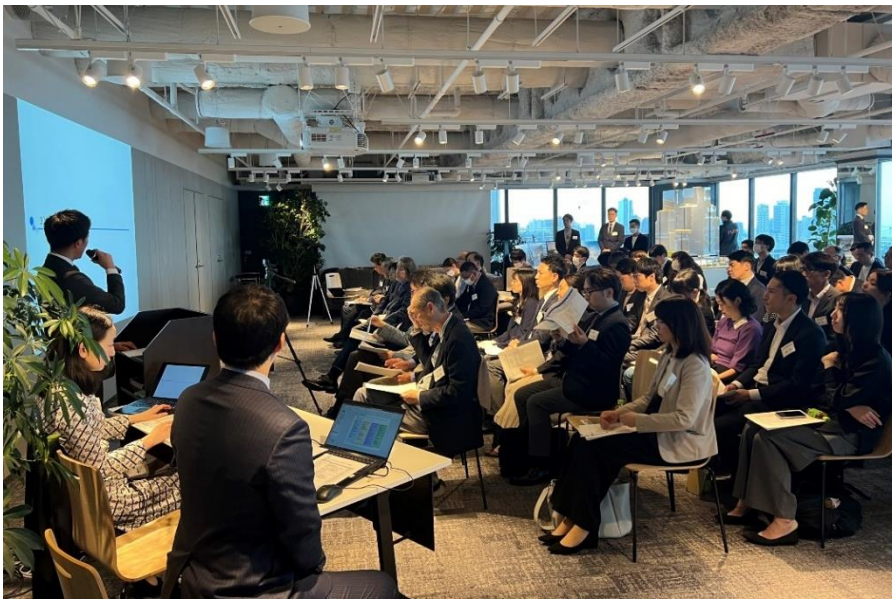
■芝浦一丁目地区まちづくり協議会がキックオフイベントを実施

芝浦一丁目地区まちづくり協議会（会長・岡田 祥男）」は、国土交通省より、今年度の「官民連携まちなか再生推進事業」の「エリアプラットフォーム活動支援事業」に採択されました。今年度は全国で 68 件が選定され、港区は本件 1 件となります。なお、港区としては竹芝エリア・新虎通りエリアに続き、3 例目の事業になります。

そしてこのたび、官・民・学が一体となり街の未来ビジョンを策定するためのキックオフイベントを、東京・芝浦の浜松町ビルディングにて、4 月 23 日（火）に開催しました。当日は、4 名の有識者や地域関係者、芝浦一丁目地区で開発を行っている野村不動産株式会社など、総勢約 70 名が出席し、2024 年度の活動計画の全体説明、ワーキング・未来ビジョン検討に関わるメンバー同士の顔合わせの場となりました。







「芝浦一丁目地区まちづくり協議会」では、当協議会の会員に加え関係する地域の方々と、今後も引き続き当地区のまちづくりにおいて鍵となるテーマのワーキングを通じて、芝浦の未来を考えてまいります。また、芝浦一丁目地区が目指す“まちの将来像”を実現するための施策・ロードマップの検討、地域関係者と連携した活動を行ってまいります。ワーキングで議論した内容をもとに 2024 年度末に「未来ビジョン」という形でとりまとめる予定です。

■ワーキング内容について

親水空間の活用・魅力アップ

芝浦は、芝浦運河や東京湾に面した水辺のまちです。最近この街でも、船着場やレストランを併設した「Hi-NODE」ができるなど、水辺に親しめる場所が増えています。こうした親水空間を、どのように住民に愛され、賑わう場所にしていくか検討します。



陣内 秀信氏（法政大学名誉教授)コメント

東京の近代港発祥の地のすぐ裏手に広がる、運河に囲われた水辺の可能性を秘めた空間が舞台である。歴史的には物流や工業ばかりか、芝浦の遊興文化の地を遺伝子にもつ界隈だけに、現代に相応しい舟運の復活と、水辺に多機能が複合化した魅力ある空間づくりを通じ、水都東京の再生を象徴する個性豊かな街の実現を目指したい。

歩いて楽しい通り・広場づくりの検討

浜松町駅南口周辺や線路沿いなど浜松町駅からの歩行者動線が大きく整備され、また区立の新浜公園も再整備されます。芝浦の公共空間が楽しく歩けて過ごせるよう、住民、就業者、来街者それぞれのニーズを踏まえながら検討します。



篠原 聡子氏（日本女子大学家政学部住居学科教授・学長）コメント

芝浦一丁目のエリアはのびやかな都市空間と心地よい水辺に恵まれた街だと感じております。未来ビジョンの策定にむけて自治体や民間企業、お住まいの皆様が連携することで、「芝浦らしい」居心地のよさが感じられる街となることを期待しております。

芝浦らしい歴史・文化の継承

芝浦は豊かな自然と産業の発展の歴史をもつユニークな街です。また地域の声を受け保全された伝統文化交流館ではまちの歴史・文化を発信しています。人や文化財などを通じて歴史・文化を知ることで、これからの芝浦のまちについて考えていきます。



太下 義之氏（同志社大学教授）氏コメント

芝浦エリアの特徴及び今後目指すべきことは、三つあると考えている。一つ目はかつて漁場として芝海老の獲れた芝浦。そこから、今日の芝浦において、「食文化」をどのように考えるかということである。二つ目は、かつて、行楽地として栄えた芝浦。そこから、今日の芝浦において、「新しい文化」をどのように考えるかという点である。三つ目は、1925 年に関東大震災からの復興を目的として日の出桟橋が整備された芝浦。そこから、今日の芝浦において、「もしもの場合の相互協力」の相方となる自治体との、文化交流はどのように考えるかということである。

環境に配慮したまちづくり

当協議会では、毎月清掃活動を行っていますが、地元の小学校・高校との連携授業でも、道路や運河などのゴミに対する課題感が見えてきました。ゴミを減らし、きれいなまちを保てるよう、資源循環の観点でどのような取組が出来そうか検討します。



上田 壮一氏（一般社団法人 Think the Earth 代表理事）コメント

2021 年から 3 年間、行政、企業、学校が連携する「SKDs 学びのまちプロジェクト」という教育活動に携わるなか、港区で活動する数々の魅力的なプレイヤーに出会いました。未来ビジョンをつくるプロセスが、これらのプレイヤーど同士をつなぎ、若者の参加も促しながら、地域の新しい時代をつくる活性剤となることを期待しています。

■関係者コメント



岡田 祥男氏　（芝浦一丁目地区まちづくり協議会会長）

芝浦地域は、大正時代末期に埋め立てられて、工場や港湾関係の物流・倉庫が集積した港町としてスタートしました。時代は移り、倉庫街から業務ビルとマンションの街へと変貌してきました。そして、舟運として使われなくなった運河の水辺が、この地域に憩いと開放感を与えています。「芝浦」に半世紀以上暮らした住民としては、今後街がどのように発展しても、子育てがしやすく、「おはよう、こんにちは」と気軽に挨拶がしあえる暖かい街であり続けてほしいと願っています。



青柳 彰浩氏　（一般社団法人芝浦エリアマネジメント 代表理事）

芝浦のまちの将来像の検討に関わる方々が一堂に会してキックオフ出来たこと、大変喜ばしく感じております。来年 3 月の未来ビジョン完成が一つの目標ではありますが、当然、その先の未来ビジョンに沿って活動していくことが重要です。今回の検討は、国交省の官民連携の枠組みも活用してまいりますので、ご参加いただく関係者の方々が連携しあい実効性も伴う計画にしていければと存じます。

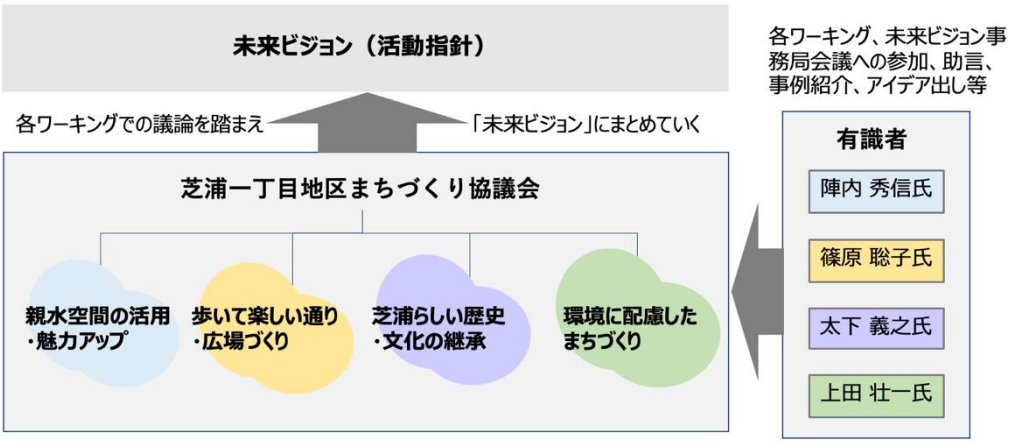


近江 善仁氏　（港区芝浦港南地区総合支所　まちづくり課課長）

芝浦一丁目は、東京湾に面した美しいウォーターフロントエリアです。新しいオフィスビルや商業施設が続々と開発される一方で、豊かな交流と温かい人間関係が魅力的な地域です。自然と都市開発の調和がとれた環境のもと、コミュニティライフを満喫できる、未来志向の持続可能なまちづくりへ向け、協議会の英知を結集してまいりましょう。
誰もが羨むまちは私たちの手に。

■活動範囲および検討体制





■芝浦エリアの風景



■参考資料

官民連携まちなか再生事業について

官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る。

URL：https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000047.html

「芝浦一丁目地区まちづくり協議会」について

2021 年 3 月 2 日に「芝浦プロジェクト」の敷地を含む芝浦一丁目地区において、地元町会、地域関係者や行政とともに「芝浦一丁目地区まちづくり協議会」を設立。回遊性向上と周辺地区との連携、地域資源の魅力向上、地域コミュニティの活性化、防災性の向上に資する活動を推進。

一般社団法人芝浦エリアマネジメントについて

一般社団法人芝浦エリアマネジメントは、野村不動産株式会社と東日本旅客鉄道株式会社の 2 社が、共同で推進する「芝浦プロジェクト」のエリアマネジメント活動を推進するために設立した。芝浦一丁目地区まちづくり協議会との連携のもと、水辺空間や運河等の地域資源や屋外空間を活用し、地域コミュニティの活性化や防災性の向上に寄与する活動を推進していく。

URL： https://www.shibaura-area.jp/

「BLUE FRONT SHIBAURA (芝浦プロジェクト)」について

野村不動産株式会社と東日本旅客鉄道株式会社が共同で推進する国家戦略特別区域計画の特定事業。浜松町ビルディング(東京都港区芝浦 1-1-1)の建替事業として、2025 年 2 月竣工の S 棟と 2030 年度竣工の N 棟からなるツインタワーの建設を予定。

URL：https://www.bluefrontshibaura.com/

リリース：https://www.nomura-re.co.jp/cfiles/news/n2024053002444.pdf